

昨年の夏前だったと思うのですが、全国のまさに地域医療・介護、包括ケア連携システムを現実のものとした技術力の製品「ID-link」を開発した SEC の伊藤龍史さんから第4回 ID-link 研究会を尾道で開催できないかと聞かれました。第3回までは毎年順調に開催されてきたのですが、利用施設が格段に増加した背景もあり4回開催になかなか漕ぎ着けなため問いかけのようでした。第1回の ID-Link 全国研究会は ID-link 発祥の地函館で、第2回はあじさいネット発祥の大村市、第3回は ICT 化の先駆地鶴岡を二次医療圏とする酒田での開催でした。いずれの地も尾道より ICT ネットワークの取り組みが早くから行われている先進地域ですが、「医療と介護連携」という点では尾道はこれらの地域より先行していますので、決してひけを取りません。そこで天かける協議会に諮るけれどお引き受けすることになるでしょうと返答しました。

協議会で開催の賛同を得て土本正治先生を委員長とするプログラム委員会（22名）を立ち上げて頂きました。2014年9月16日に第1回のプログラム委員会を、以後月1回のペースで1月まで5回開催しました。プログラム委員会での主な検討事項は

- 1) 開催時期と会場
- 2) プログラム
- 3) 収支計画（会費を含む）

でした。

#### 1) 開催時期と会場

3回までの開催は5月～9月の年度初めの比較的早い時期でしたので尾道でもできる限り早い土日開催をと考えました。

開催に当たり会場決定には会場の参加者の収容能力が大事です。3回までの開催地域での参加者数はネットワーク立上げと共催で行われていたもので地元と全国からの参加者数はほぼ同数で最大300名でした。

そこで ID-link の導入実績をみると平成24年10月末データで23都道府県の1336施設（情報公開施設101施設、閲覧施設1235施設）、それが1年後の2014年8月末には37都道府県3783施設、情報公開サーバ設置施設は291施設と約3倍に増えていました。そのため参加者も演題数も増えると予想し、しまなみ交流館に当たったのですが1月31日の1日だけが年度内に開催できる土曜日でした。急いで予約しました。

#### 2) プログラム

第3回の研究会のプログラムをエスイーシー株式会社(SEC)から届けてもらい、それを参考に研究会当日のタイムスケジュール案を立て検討しました。また研究会は1日だけなので、尾道地区からの発表は展示に限定、尾道以外からの発表は口演とすること、また尾道での開催なので尾道ならではの特別企画案を検討することになりました。展示は

学術展示だけではなくビロードケアなどの機器展示も出した方がよいとの意見が出ました。

SECのID-linkのホームページ(HP)と天かけるのHPと連携するHPを立ち上げ、研究会の日程、会場、演題募集と募集期間、発表時間、展示パネルのサイズ、参加申し込み、ホテル予約など掲載しました。

特別企画は尾道方式として最もよく知られるケアカンファランス(CC)を題材に模擬カンファランスを検討し片山先生に相談、しかし模擬CCでは必要な情報をやり取りする緊張感に乏しく、CC前後の動きなど長期継続的マネジメントしてきた主治医機能について理解してもらいにくいのでは、ということから最終的に片山先生に特別講演をお願いすることになりました。

一般演題は全国から14題、尾道地域からは8演題の計22演題が集まりました。大まかに発表内容から14演題を3分割し、それぞれの座長を決定、全国研究会にふさわしく他県の先生お二方を座長に指名しました。伊藤龍史さんから発表時間はこれまで1演題15分で行ってきた、それくらいの時間は欲しいと言われていたので質疑応答含めて15分、休憩時間を入れると午前からの開始とすることになりました。

#### 4) 研究会

受付に時間がかかり研究会は10時10分から始まりました。午前中は一般演題6演題で二次医療圏越えの連携、午後からは宮野良隆協議会会長に代わって土本正治副会長、平谷裕宏市長に代わって富永嘉文副市長に挨拶いただきました。その後14時より片山壽先生の特別講演「超高齢化社会に対応する医療介護連携の手法～カンファランスが可能にする地域医療連携のシステム化～」、病診連携・地域包括ケアの一般演題の8題、学術展示8題の質疑、伊藤龍史さんの「ID-link 今後の展望」で研究会は終了しました。

参加者は約300名、内訳は尾道地域から100名、全国から167名、ベンダー支援約30名、懇親会は150名でした。これでは昼食は足らなかったと想像できますが、好天でお弁当より尾道グルメ散歩ということで、尾道ラーメン他に流れた参加者に救われました。

当日の発表は <http://amakakeru.imisca.jp/> でご覧いただけます。朱で記載された講演コンテンツをクリックください。それぞれの地域で特色のあるネットワーク(ネーミングも含めて)が行われています。それらを参考に天かけるネットワークは地域包括ケアに向け更なる向上を目指したいと思いますのでご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

この研究会にご支援いただいた先生方、事務局の皆様にご心より感謝申し上げます。  
ありがとうございました。

第5回プログラム委員会（2015年1月15日）木曾先生の右手隣はSECの伊藤龍史さん

